

公立大学法人岩手県立大学 中期目標

【はじめに】

公立大学法人岩手県立大学は、平成 17 年度に 1 大学（大学院を含む。）2 短期大学部を設置し、以後 6 年間にわたる法人化第一期の中期目標に基づき、「実学実践」による教育研究活動や地域貢献活動を推進し、その間、平成 20 年度の学校教育法に基づく認証評価による大学基準及び短期大学基準への適合認定を経て、着実に発展しながら現在に至っている。

今日、18 歳人口の減少のもとで「大学全入と大学間競争の時代」を迎え、わが国の大学においては、高等教育機関として教育・研究の質の一層の向上を図るとともに、生涯学習への対応や産学共同研究による社会への貢献を重視するなど、それぞれの特色を生かした個性的な大学づくりを進めている。

岩手県においても、人口減少や少子高齢化が進行し、産業経済面のグローバル化が一層進展する中で、これらに対応した取組を進めてきているが、雇用や所得、医療や介護・福祉など県民生活の根幹に関わる分野で大きな変化に直面している。

岩手県立大学においては、法人化第二期に当たって、高等教育機関としてこれらの変化に対応し、県民生活の向上に貢献していくことが期待されることから、これまでに培われた基盤に立って、大学を取り巻くさまざまな環境変化を見据えるとともに、開学時の使命を再認識しつつ、教育、研究、地域貢献について、さらなる充実・強化に取り組むよう求める。

○ 基本姿勢

法人化第二期の大学においては、教育の対象である学生の成長を最も重視するという視点（**学生目線**）に立って、「**学生を主人公とした教育**」に取り組むこと、また、困難な時代にあって地域社会を支えるという視点（**地域目線**）に立って、「**岩手の活力を創出する研究・地域貢献**」に取り組むことをそれぞれ基本姿勢とする。

これらの基本姿勢に基づき、確固たる運営基盤のもと着実な取組を進め、「**地域の中核人材育成と活力創出に貢献する大学**」となることを目指すものとする。

○ 基本目標

1 学生の「志」を高める大学（教育）

学生一人ひとりが持っている資質を引き出し、向学心、探究心を高める全学的な基盤教育と高度な専門教育との融合により、これからの我が国や地域社会を支え、各分野のリーダーとしての役割を担う「志」を持つ人材（地域中核人材）を育成する。

2 地域から頼られる大学（研究・地域貢献・国際交流）

大学教育の基盤となる独創的・先進的な研究により、教育の質の一層の向上を図るとともに、岩手県の地域特性や地域のニーズを踏まえた研究活動を推進する。

岩手県の「知の拠点」として、産学公の緊密な連携による新たな価値の創造、地域課題

に向き合うシンクタンク機能の強化、県民への学習機会の提供などの役割を果たし、地域社会の活性化に貢献する。

グローバル化が進展する中で、国際交流を活性化し、国際的視野を備えた人材を育成する。

3 効率的・機動的な大学運営（業務運営等）

計画の立案・実行・評価を行うための組織運営体制の強化、人事制度の適正化、安定した財務基盤の確立、広聴広報活動の推進などにより、大学の永続性を確保し、県民から信頼される大学づくりを進める。

I 中期目標の期間及び教育・研究上の基本組織

1 中期目標の期間

平成 23 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

2 教育・研究上の基本組織

次に記載する 1 大学 2 短期大学部を置く。

(1) 岩手県立大学

看護学部及び看護学研究科

社会福祉学部及び社会福祉学研究科

ソフトウェア情報学部及びソフトウェア情報学研究科

総合政策学部及び総合政策研究科

(2) 岩手県立大学盛岡短期大学部

(3) 岩手県立大学宮古短期大学部

II 大学の教育・研究等に関する目標

1 教育に関する目標

【基本目標】

学生一人ひとりが持っている資質を引き出し、向学心、探究心を高める全学的な基盤教育と高度な専門教育との融合により、これからの我が国や地域社会を支え、各分野のリーダーとしての役割を担う「志」を持つ人材（地域中核人材）を育成する。

(1) 教育の成果に関する目標

ア 大学教育

(ア) 基盤教育

人間性、倫理性を高める豊かで幅広い教養、基本的なコミュニケーション能力、グローバルな視点から主体的に問題を発見し、課題解決できる能力を涵養する。

(イ) 看護学部

地域住民や看護現場の多様なニーズに対応し、看護の実践を基本とした高度な専門的知識・技術、幅広い教養とともに、看護の援助を必要とする人々の立場に立ち、科学的に判断し、主体的な看護を展開する能力を有する人材を育成する。

(ウ) 社会福祉学部

地域住民や福祉現場の多様なニーズに対応し、他職種と連携のできる専門的知識・技術の修得を通して、今日の福祉課題とニーズを主体的に発見し、実践することのできる問題解決能力の高い人材を育成する。

(エ) ソフトウェア情報学部

コンピュータサイエンスに立脚し、地域に根ざした実学実践の教育研究を通して、

「人にやさしい情報社会」の実現に向け、利用者の立場に立ち、ソフトウェアを設計・開発・管理できる人材を育成する。

(オ) 総合政策学部

複雑・高度化する現代社会の諸課題や地域の多様なニーズに対応し、多面的で総合的な視点を備えた新しい手法や長期的な展望を身につけ、柔軟な解決策を見出し、地域をリードすることができる人材を育成する。

イ 大学院教育

(ア) 看護学研究科

人々の健康問題や医療・看護に対する意識の変化と医療・科学技術の進歩に対応することのできる高度な専門的知識・技術と倫理観をもとにした看護実践と研究を通して、看護の質の向上を目指し、優れた実践能力や教育研究能力を有する人材を育成する。

(イ) 社会福祉学研究科

社会福祉領域の変化に対応した新たな福祉政策・社会福祉システムの開発や複雑・多様化する福祉ニーズへの理解と問題解決に関わる深い識見と高度な専門的知識・技術を持ち、他の職種と連携しながら社会福祉現場をリードできる、優れた実践能力や教育研究能力を有する人材を育成する。

(ウ) ソフトウェア情報学研究科

基盤ソフトウェア及び情報システムの企画・構築・運用において、現状の課題把握と解決ができ、知能及びメディアを利用した新システムの開発・適用の課題を解決できる、ソフトウェア情報関連分野の優れた実践能力や教育研究開発能力を有する人材を育成する。

(エ) 総合政策研究科

複雑・高度化する現代社会や地域の諸課題に対応するため、総合的な政策の企画立案・実施・評価に関する、高度な専門的知識を備え、優れた実践能力や教育研究能力を有する人材を育成する。

ウ 盛岡短期大学部

豊かな人間性、コミュニケーション能力、語学力などを涵養し、幅広い教養を培うとともに、生活に関する実践的な専門教育や国際化社会に対応する多文化理解に関する専門教育を通して、さまざまに変化する生活環境に対応できる人材、地域の国際化や地域文化の振興を推進できる人材を育成する。

エ 宮古短期大学部

豊かな人間性、コミュニケーション能力、語学力などを涵養し、幅広い教養を培うとともに、経営・会計と情報科学の専門教育を通して、広い視野から地域を見つめ、地域課題に積極的に取り組む意欲と能力を併せ持った人材を育成する。

(2) 教育の質の向上等に関する目標

ア 入学者の受入れ

岩手県内の子弟を中心に広く大学教育の機会を与えるとともに、魅力ある教育内容を充実させ、本学で学ぶ目的意識を持つ意欲的な学生、本学の専門特性に合致した資質と能力を備えた学生を確保する。

イ 基盤教育の強化

豊かな人間性を培う教養教育と、社会的・職業的な自立性を養うキャリア教育を体系化した基盤教育を積極的に展開する。

ウ 専門教育の充実

「実学実践」の教育理念のもと、学生が主体的に学ぶ姿勢を持ち、現場でものを考え、行動する力を身につける高度な専門教育を推進する。

エ 教育力の向上

学生の理解度が高まるよう不断に授業内容の充実を図り、教員の教育力の研鑽・向上を図る。

(3) 学生への支援に関する目標

ア 学習支援・学生生活支援の充実

きめ細かい学習支援の環境を整備するとともに、学生が安心して修学を継続できるよう、学生一人ひとりの実情に応じた生活支援を行う。

イ 進路指導及び就職支援

学生のキャリア意識を啓発し就業力を育成するとともに、進路選択のための的確な指導を行う。

高い就職率の水準確保に加え、学生の県内への就職促進を図るとともに、卒業生のUターン就職など県内への再就職を支援し、地域で活躍できる人材確保に努める。

また、編入学、大学院進学についても適切な支援を行う。

2 研究に関する目標

【基本目標】

大学教育の基盤となる独創的・先進的な研究により、教育の質の一層の向上を図るとともに、岩手県の地域特性や地域のニーズを踏まえた研究活動を推進する。

(1) 研究の推進に関する目標

今日の多種多様な地域課題や時代の要請に的確に対応するため、大学の独自性を生かした実践的な研究や、専門分野の連携により複合的な研究を強化するとともに、研究成

果を知的財産として蓄積し、地域社会に積極的に公開する。

(2) 研究の質の向上に関する目標

新たな研究テーマの発掘や研究分野の重点化など弾力的な研究支援を充実させ、研究活動に関する教員のモチベーションを高めるとともに、研究環境を整備し、地域に評価される研究成果を生み出すよう努める。

3 地域貢献、国際交流に関する目標

【基本目標】

岩手県の「知の拠点」として、産学公の緊密な連携による新たな価値の創造、地域課題に向き合うシンクタンク機能の強化、県民への学習機会の提供などの役割を果たし、地域社会の活性化に貢献する。

グローバル化が進展する中で、国際交流を活性化し、国際的視野を備えた人材を育成する。

(1) 地域貢献に関する目標

ア 産学公連携の強化

大学の教育研究の成果や知的資源をもとに、産業界、地域団体、自治体などと有機的に連携して、産学共同研究による新技術の開発、高度技術者の育成などを積極的に進める。

イ 県民のシンクタンク機能の強化

地域が抱える課題解決の要請に対して、大学の知的資源を結集した実証的研究を推進し、政策提言や受託研究、県民生活の調査分析を行い、その成果を公開するなど、地域に貢献する活動を強化する。

ウ 県民への学習機会等の提供

地域に開かれた大学として、県民に広く学習機会を提供するとともに、社会人の学び直しや生涯学習のニーズにきめ細かく対応する。

(2) 国際交流に関する目標

双方向の国際交流事業の推進により教育研究の充実を図るとともに、学生の国際的視野を養う。

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

【基本目標】

計画の立案・実行・評価を行うための組織運営体制の強化、人事制度の適正化、安定

した財務基盤の確立、広聴広報活動の推進などにより、大学の永続性を確保し、県民から信頼される大学づくりを進める。(以下、Ⅳ、Ⅴ、及びⅥにおいて同じ。)

1 運営体制の改善に関する目標

理事長、学長のリーダーシップによる迅速かつ的確な意思決定により、全学一体となった大学運営を行う。

2 教育研究組織に関する目標

大学の教育理念・目的に合致した教育研究組織を編成し、柔軟かつ機動的・効率的な組織改革や教員配置を行う。

3 人事制度の適正化に関する目標

多様な人事制度を導入し、大学の特性、専門性に応じた優秀な教職員を確保・育成するとともに、適正な処遇を行う。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標

効率的・安定的な大学運営のための柔軟な事務組織の設置や職員の配置を行うとともに、職員の能力向上を図る。

Ⅳ 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

科学研究費補助金、受託研究などの外部研究資金の獲得を奨励するなど、自己収入の増加に努める。

2 予算の適正かつ効率的な執行に関する目標

大学の財務健全性を確保するため、運営経費の抑制に努め、適正かつ効率的に予算を執行する。

Ⅴ 自己点検・評価・改善及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

大学の理念・目的と教育研究活動、地域貢献活動及び業務運営の整合性を常に点検・検証するとともに、結果を積極的に公表し、改革・改善につなげる。

2 情報公開等の推進に関する目標

積極的な全学広報により、大学の諸活動、業務運営にかかる県民などへの説明責任を果たす。

広聴活動により学外からの意見・要望を積極的に採り入れ、業務改善に反映させる。

VI その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

環境に配慮した施設設備の適切な管理に努め、有効活用を図る。

2 安全管理に関する目標

学生・教職員の安全と健康の確保を図り、全学的な危機管理体制を構築する。